

令和5年度 第2回京都市公共事業評価委員会 議事概要

第2回委員会では、再評価及び事後評価対象事業の審議を行った。

1 開催日 令和5年9月22日（金）

2 場 所 本庁舎1階 第1会議室

3 出席委員

山口委員長、坂西副委員長、齋藤委員、土渕委員、内藤委員

4 内 容

委員会における議事概要は、以下のとおり。

（1）再評価対象事業の審議

再評価対象8事業のうち、第2回委員会では3事業について審議を行った。

・宮前橋改築

委 員：今回の耐震補強の実施後、例えば、最大震度でどれ位まで耐えられるようになるのか等を示すことは可能か。

京 都 市：震度でどれ位まで耐えられるとはお示しできないが、東日本大震災の後に橋りょうの設計基準が改訂され、その基準に基づいて実施しており、東日本大震災相当の地震に対応した耐震設計になっている。

委 員：審議の結果、京都市の対応方針案は妥当であるとする。

・崇仁北部第三地区、崇仁北部第四地区

委 員：2事業ともB/Cの値が1を下回っている。ただ、事業によって見方が違ってくるのかも知れないので、理由や解釈について聞きたい。

京 都 市：住環境の整備が事業の目的で、悪条件の住環境でお住いの方の用地・家屋を買収して除却し、空いた土地に市営住宅を建てて、また入居していただく。経済的な効率性の部分では、効果を表現しにくい事業である。時間はかかっているものの、住環境は大幅に改善してきており、引き続き、事業を進めていきたい。

京 都 市：事業ごとにB/Cの算出方法が異なり、本事業では地価の上昇等を便益として算出している。数多くある便益の中で貨幣換算が可能な一部の便益だけで算出しており、例えば、京都市立芸術大学が移転し、地域の活性化が期待されるが、B/Cの数字には表れてこない。

委 員：この地区の公示地価はどう変化しているのか。B/Cだけではなく、公示地価の差等から多角的に評価するのも良いと思う。

京 都 市：地価に関するデータを持ち合わせていないため、次回の委員会でお示しする。

委 員：第四地区の導入施設用地というのは、例えば、商業や事業用の施設等が今後、建っていくということか。

京都市：導入施設用地は、住宅地区改進黨とは別の事業を誘導していく用地として考えているが、第四地区は未買収地が残っているため、買収・除却をまず第1に考えている。それが進めば今後、地域や京都市全体にとって有益な施設を誘導していきたい。

委員：この事業は土地区画整理事業との合併施行で実施されており、地元との合意形成等、労力の割にB/Cの数字の評価には繋がりにくい特性があるのだと思うが、色々手間が掛かっている分、良い整備ができることに期待したい。

委員：審議の結果、京都市の対応方針案は妥当であるとする。

（２）事後評価対象事業の審議

・旧安祥寺川

委員：北の方から来た水が減勢池に入り捷水路しょうすいろに向かって流れていくとのことだが、JR南側の元々の旧安祥寺川の方も変わりなく流れているのか。

京都市：捷水路しょうすいろからJRを横断する新しいルートを北側に整備したが、元々の旧安祥寺川も残置している。通常、流量は少ないが元々の旧安祥寺川にも維持用水として流し、大雨時には北側の新ルートが効果を発揮するという状況である。

委員：新旧のルートに分かれた水が再び合流する地点で、氾濫の恐れはないのか。減勢池の様な施設は要らないのか。

京都市：元々の旧安祥寺川には維持用水程度の流量しか流れず、大雨時は、ほぼ全ての流量が新ルートに流れる。合流地点も新ルートからの水がほとんどで、そこに旧ルートの水が少し流れ込むような状況であり、ここに減勢池のような施設は必要ない。

委員：審議の結果、京都市の対応方針案は妥当であるとする。

・上鳥羽南部地区

委員：国道1号の京都南ICの前後は信号の間隔がかなり離れており、歩行者が東西に横断できる場所がない。夜間、京都南ICの所で国道を横断する人を見かけたことがあり、住民の方は普段どのように横断されているのか、御存じであれば教えて欲しい。

京都市：住民の方からの意見等は、少なくとも当方には届いていない。

委員：京都南IC自体は事業エリアの外側にあるため、事後評価として改善措置等を求めるものではないが、参考意見としていただければと思う。

京都市：国道の横断について、京都南ICの少し南に横断歩道橋があるので、そこを利用されているのだと思うが、別途、写真等をお示しする。

委員：審議の結果、京都市の対応方針案は妥当であるとする。

（３）その他

・第1回委員会での質問への回答（労務費・資材費の高騰の状況等）

委員：前回の委員会で、コストに比べて便益は低めに見積もられているという御指摘もあったが、実際にB/Cとして表される数値は限定的なものであり、他にも様々な効果があるということで、最低限のB/Cとして明示されているという認識かと思う。

・議事全体について

委員：公共事業は、必要なものを適正な価格でタイムリーに提供することが理想だが、自然や人を相手にしていることから、当初の計画通りに進まないこともあり、再評価や事後評価に求められる役割も大きいと思う。今回、事後評価を行った事業については、期待していた効果が全て発現しており、事業継続を妥当とした事業については、最大限の効果を早期に発現できるよう、事業完了に向け取り組んでいただきたい。

以上